抗ウイルス療法開始前の時点で好中球減少症を発症していた
HIV 感染症/AIDS の症例の治療実績に関する後ろ向き観察研究

研究へのご協力のお願い

当院では、最新の(最善の)医療を患者さんに提供するとともに、より良い治療法や診断法などを開発するための臨床研究を行っています。患者さんに参加していただいて、治療方法や診断方法が有効であるか、あるいは安全であるかを調べることを臨床研究といいます。

研究の背景

HIV 感染症の進行による末梢血中の CD4 陽性 T リンパ球の減少に伴って、好中球減少症を発症することが稀ならずあります。HIV 感染症に好中球減少症が合併する事で、日和見感染症に罹りやすくなることや、治癒率が低下してしまうことが懸念されます。一方、好中球減少症に対しては顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)製剤を投与することで一時しのぎをすることが可能であり、抗レトロウイルス療法(ART)を導入する事でも治療可能とされています。その一方で、日和見感染症の治療薬(ST 合剤や(バル)ガンシクロビル)や ART に用いる薬剤の一部ジドブジンなど)でも好中球減少症を発症することがあります。ただ、これらの報告は ART が近年ほど発達していなかった時期の報告が多いです。

そこで、現在の HIV 感染症と好中球減少症との関連を評価するため、当院で HIV 感染症に対する抗ウイルス療法(ART)導入前の時点で好中球減少症を発症していた症例を調査することにしました。

本研究について

この研究は、2004 年 4 月から 2025 年 5 月までに当院で HIV 感染症に対して初めて ART を導入した患者さんを対象とします。対象となる患者さんの臨床所見、検査データを収集し、好中球減少症の発生率や治療経過を明らかにします。過去のデータを収集するため、本研究に参加することで新たに治療・検査が追加されることはありません。

この研究で得られた情報により、ART が発達した現在における好中球減少症の HIV 感染症に与える影響に関する知見を得ることが期待できます。

研究の参加はあなたの自由意志を尊重します

「ご自身のデータを使用されたくない」と思われたときには、あなたのデータを除外しますので以下のお問い合わせ先までご連絡ください。

プライバシーの保護について

この研究で得られた情報は、学会発表や医学雑誌などで公表されることがありますが、お名前や個人的な情報は一切わからないようにいたします。また研究中のデータに関しても、外部に漏れないように厳重に管理いたします。

お問い合わせ先について

この研究についてわからないことや、聞きたいこと、またなにかご心配なことがありましたら、いつでも遠慮なく担当医師におたずねください。

また、病気や怪我などで他の治療を受ける時、より詳細な研究の計画、研究の方法についてお知りになりたいときにも、担当医師までご連絡ください。なお、この研究に参加している方の個人情報や、研究の知的財産などには、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

【お問い合わせ先】

独立行政法人国立病院機構　京都医療センター　呼吸器内科
〒612-8555
京都府京都市伏見区深草向畑町 1-1
TEL: 075-641-9161
研究責任者:呼吸器内科　医師　金井　修